



真宗高田派本山 専修寺  
高田 本山だより

令和8年 春号

145



高田本山 HP

令和8年春号(第145号) / 発行・令和8年3月1日 / 〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp



『縁に助けられた一年を振り返って』



現在、私は高田本山の総合案内所で勤務して一年が過ぎました。転職という大きな変化の中で不安もあり

ましたが、まずは一年をやり遂げた自分を少しだけ褒めてあげたい気持ちです。この一年を振り返ると、かつてないほど多くの新しい出会いや再会に恵まれ、「人との繋がり」を強く実感する毎日でした。

例えば、案内所業務を通じて檀家の皆様と直接お話する機会が増え、その存在がより身近で大切なものとなりました。

また、高田中学・高校時代の恩師が本山にお参りにみえ、私を気にかけて声をかけてくださることに、懐かしさとありがたさを感じます。職場にも家族の知人や恩師がお越しになることがあり、こうした多くの縁

に支えられてこの一年を歩んでくれたのだと心から感じています。

かつて父から「将来何より役立つのは人との繋がりがだよ」と助言された際、人付き合いに苦手意識があった私は聞き流していました。しかし今、その「繋がり」に助けられている自分に気づかされています。

お釈迦様は、「縁起」という言葉を残されました。「縁起」とは、すべての出来事に原因があり、それが「縁（環境や条件、出会い）」に触れることで、互いに関係し合い成り立っているという道理です。私たちは自らの力だけで生きているのではなく、数えきれない繋がりの中で「生かされている」存在であるという事実です。

こうした人との繋がりとしての

「縁」も、阿弥陀様が結んでくださった尊いご縁であり、それに気づかされること自体が阿弥陀様の温かな導きなのだと感じます。

私が生かされるために与えられたこのご縁に感謝し、それを心の拠り所にしていくことが、何よりも大切なのではないか、環境の変化を境に、私は身の回りの縁をより一層深く実感できました。

これからこのご縁を大切に育みながら、次の一年もこの尊い繋がりを頼りにして精一杯励んでいきたい所存です。

三重一組 東部

慈光寺衆徒 藤山真朋



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）  
電話 (075) 371-0854・8181~2番  
FAX (075) 344-2701番  
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年

松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘  
執行役員支店長 小沢一彰

本社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150  
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

浄土真宗なんでもO&A

# 佛華

莊嚴

佛さまにお花をお供えすること

は、いつから始まったのでしょうか。

起源は、古来インドで、花びらを散らして、佛さまをお迎えする「散華」が行われたことにあるそうです。

日本では佛教伝来とともに、佛さまにお花をお供えする習慣が伝わり、今でもお寺での法会によっては、華葩（紙で作られた花びらをかたどったもの）を散らす散華がされています。

さて、佛さまを敬い尊び、お佛壇やお寺の本堂において佛前をお飾りすることを

お莊嚴といい、佛さまにお花をお供えすることもその一つです。そのお莊嚴にはそれぞれに意味があり、それが形となっています。

高田本山専修寺のお花は「高田の一本松」と言い

高田の一本松

佛前にこのように松をお供えする風習は、長野県の



華葩

善光寺にもあります。善光寺の本堂には「親鸞松」と呼ばれる松が一本大きな花瓶に一年を通して生けられており、親鸞聖人が善光寺に御参詣された時、御本尊に松を奉納されたという逸話があります。また、栃木県の本寺専修寺には、親鸞聖人が善光寺からお迎えした一光三尊佛が御本尊として安置されていることから親鸞聖人と善光寺のつながりを思わせる習俗ではないかという説があります。

しかし、一般家庭では松が手に入りにくいこともあり、高田派の在り方として松を基本としながらも四季折々の生花をお供えます。そして、お佛壇にお花をお供える時に、佛さまの方ではなく私たちの方に向けてお花をお供えするのは、水によって養われ、枯れ行く花の相を通して、いのちあるものは必ず死にゆく、ということと同時に、今、生かされて生きていることの尊さを教えてくださっている佛さまのはたらきをあらわしているのでしょう。

(教学院第三部会)

伝統を引き継ぐ職人會

## 蒼築舎

Sochikusya Co.,Ltd

伝統的な社寺建築、古民家や一般住宅・店舗の修繕、リフォーム、リノベーションなど、自然素材を活かした壁や空間を提案します。

左官工事 / 建築工事 / 外構工事

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusha@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店

代表取締役社長 今岡規代

●本社

600-8768

京都市下京区堀川通

新花園町角(西本願寺前)

Tel 075-351-1234

0120-075-720

Fax 075-341-7905

●東京店

160-0008

東京都新宿区四谷

二栄町十四番地三

Tel 03-3358-1500

Fax 03-3359-8902



オンラインショップはこちらから →

# お七夜

## 報恩講を振り返って



おたのしみ布教大会



御非時をいただく



法要の様子

お七夜（報恩講）は、真宗高田派の宗祖・親鸞聖人の御命日を縁として、その御遺徳を偲び感謝を捧げる、一年で最も大切なお勤めです。

旧暦の御命日を新暦に換算した一月九日から一月十六日まで、七晩にわたってお勤めすることから、古くよりこの名で親しまれてきました。

御影堂に一步足を踏み入れると、どこか懐かしく、身の引き締まるような空気に包まれます。特に一月十五日の夜、静寂の中に響き渡る莊嚴な声明や「引声念仏」など、あのお腹の底に響くような力強い念仏を聴くと、まるでお浄土の風景が心に浮かぶようです。

お勤めに続く布教使さんの説教も、お七夜の大きな魅力の一つです。それぞれの個性があるも、内容はすべて「必ず救う、まかせよ」という阿弥陀さまの温かな呼び声。耳を傾けていると、日々の忙しさを忘れ、自分自身を見つめ直す穏やかな時間が流れます。

平成二十九年に国宝に指定され

た御影堂と如来堂は、いつ見ても「帰ってきたよ」という安心感を与えてくれると言われる方もみえます。近年では、夜の境内を優しく彩る「専修寺竹あかり」もお七夜の風物詩となりました。幻想的な光の中、手を合わせる若者や子どもたちの姿が、次代へとつながる希望を感じさせてくれます。

お参りの合間に用度講（食堂）でいただく「御非時」の味も、忘れられない思い出の一つです。温かな食事で心身ともに満たされつつ、最終日の十六日朝には、聖人の御廟へと続く行列があります。時代は変わっても、お七夜の灯火は私たちの行く先を照らす道しるべ「燈」として、これからも大切に受け継がれていくことでしょう。



はたちの集い

「燈炬殿だより」

## 安居 ANGO ～仏教文化講座のはじまり～

真宗高田派本山専修寺の仏教文化講座が始まって百回目の今年、いつものように八月には、法主殿御親講をもって講座が開催されます。

仏教文化講座は、専修寺において永年営まれてきた「安居」の伝統を継承し、大正期に開設されたものです。そこで、今回の展示では、その源流となった専修寺の「安居」



勸学堂額（高田学苑蔵）

とはどのようなものであつたかをテーマといたします。安居の由来は、釈尊の時代にまで遡ると伝えられます。当時のインドでは、雨季に

なると小動物が盛んに活動するため、外で修行を続けければ、気づかぬうちに踏みつけて殺生してしまうおそれがありました。そこで釈尊は、雨季のあいだ外出を慎み、僧侶たちと一か所に集まって修行に専念されました。これが安居のはじまりとされています。

専修寺でも、古くから安居が行われていましたが第十六世堯円上人は専修寺の安居を講義形式の教学研鑽の制度として定められ、寛文十二（一六七二）年に安居が開かれたとの記録があります。

続く第十七世円猷上人は、安居の充実・発展に尽くされました。

そして、第十八世円遵上人の下では、安居に用いる『顕正流義鈔』の復刻や『顕正流義鈔蒙引』の編纂が行われました。さらに、安居の場としての勸学堂も完成しました。勸学堂に掲げられた扁額の力

強い文字は、当時の教学研鑽への強い意気込みを感じさせます。こうして歴代の上人のご尽力により、専修寺の安居の発展の基礎が整えられたのです。

講義には、経典や開山親鸞聖人がお書きになられた書物に加えて高田派独自の典籍も用いられました。

例えば、『顕正流義鈔』は、十五世紀後半に、第十世中興真慧上人が著されたもので、当時他宗派を中心に広まっていた誤った考えを正し、親鸞聖人の教えを正しく相承してゆくことの重要性が説かれています。そしてこの書物を解説したのが『顕正流義鈔蒙引』です。

また、『高田開山親鸞聖人正統伝』は、河原田の常超院住職五天良空が十八世紀前半に著したもので、親鸞聖人の一生が年を追ってわかりやすく描かれ、高田派内外を問わず広く読まれたといわれています。

専修寺の安居は、制度、場、研鑽に用いる典籍も充実したものであり、自派の正統かつ優れた教えを学ぼうとする僧侶の熱意も自ずと高まり、安居の会場には、僧侶

毎週月曜日 よる7時  
(毎週土曜日 ひる12時再放送)  
TVで見逃し配信中！  
三重テレビ放送

高田本山御用達  
三重県仏教会御推薦  
石碑  
記念碑  
燈籠  
高級御影石専門店  
御影石材(株)  
(石に御用の方は) イシニコヨオ  
☎0120-142540  
本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎059-224-1700(代)



『顕正流義鈔』(西岸寺蔵)



『顕正流義鈔蒙引』  
(高田短期大学仏教教育研究センター蔵)

がひしめき合い、あふれんばかりであったといわれています。

安居の伝統は、途切れることなく大正時代まで続き、やがて百年前の大正十五(一九二六)年、堯猷上人によって、安居の発展形として仏教文化講座が始められました。

今回の展示では、親鸞聖人、堯上人、円猷上人、円遵上人の肖像とともに安居に用いられた典籍、『勸学堂』の額などを展示いたします。

また、安居の折、講師をもてなした茶会に使われた茶道具など、教学の隆盛とともに花開いた専修寺



茶会に使われた黒楽茶碗  
(銘牛ノクビ)

の文化の一端を示す品も展示いたします。

ご覧いただき、安居から仏教文化講座へと、僧侶の研鑽の場を大切に発展させてきた専修寺の歴史に思いを馳せていただければ幸いです。

宝物館 燈炬殿

館長 大野照文

## 本山護持会のご案内

護持会は本山の護持興隆を目的とし本山役職員及び事業者事業所、営業所、企業様により運営されています。

護持興隆とは本山専修寺とお念仏の教えである仏法を大切に守り、さらに本山の発展及び繁栄させることを指し、お檀家さんが運営される事業所、企業様はもとより、本山をお支えしたいと思う事業所、企業様にもご入会いただき会員としてご活動いただいております。

入会には紹介者及び簡単な審査の後、入会金及び年会費などが必要ですが、御用達店と名乗っていただける許可証を貸与させていただきます。

是非ご加入いただきますよう、ご案内いたします。

お尋ねは本山宗務院護持会担当者(059-2324171代表)までお願いいたします。

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

対話から生じる情報発信や  
プロジェクトをサポートします!

三重に暮らす・旅する WEB マガジン  
**OTONAMIE**

otonamie | 14,500フォロワー突破!  
mail otonamie@gmail.com | 059-268-3538 (壽印刷工業株式会社)



お寺の実績  
紹介記事

お寺とともに  
地域をつくる。

## 永田文昌堂

最新刊!

浄土三部経 概説と余話

草間 法照著

定価2,970円(税込)

本書は経文を逐一追うのではなく、三部経の粗筋を辿りつつ必要な解説を施したもの。経典成立の背景・意義・伝播・影響などに触れながら、三部経の基礎的な情報及びその周辺の事情をまとめる。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031

最新刊!

他力・手放しの信心・正定聚不退転の過程

藤井 美恵子著

定価5,170円(税込)

阿弥陀仏(真理)との邂逅による信心と、小学校の授業で出会う。以後、筆者は信心を模索し続け、長年所属した真宗系団体を退会し、本願を賜る。博士論文、ワークショップ、質疑応答等から、生死苦悩を超える過程がいま明らか!

## 「親鸞様へのきつかけ作り」

私は高田本山の参拝課にて、広報の仕事を担当しています。その中で「高田本山の広報とは、具体的に何をしているのか」という質問をよく受けます。

広報の仕事は、一言で言えば高田本山の「顔」となり、社会との良好な関係を築く極めてエネルギーギッシュな役割を担っています。その本質は単なる宣伝活動に留まりません。高田本山が守り続けてきた伝統や価値を、現代に響く「ストーリー」にして、より多くの方に届けていくことにあります。

広報の日常において、最も重要な柱となるのがメディア対応です。新聞、雑誌、WEBメディアの記者と強固な信頼関係を築き、高田本山のニュースを客観的な記事として取り上げてもらうための働きかけを行います。広告とは異

なり第三者の視点で紹介されることで、情報の信頼性が飛躍的に高まる点にこの仕事の醍醐味があります。

また、映像メディアを通じた発信も欠かせません。高田本山が映画やテレビ番組のロケ地として活用されたり、ドキュメンタリーやニュース番組の取材を受けたりする際、広報は現場の司令塔となります。綿密なスケジュール調整から、撮影内容のコンプライアンスチェック、さらには予期せぬトラブルへの迅速な対応まで、裏方として完璧にこなすことで、映像を通じて高田本山の魅力を伝える機会を最大化させます。

この仕事に従事していると、著名人や表現者の方々と接する機会も多く、それは一つの「役得」と言えるかもしれません。しかし、

真のやりがいはその先にあります。広報は常に変化する社会の波を読み解き、高田本山のストーリーを最適なカタチでアウトプットし続けます。

こうした活動のすべては、皆さまが親鸞聖人の教えに触れるための「きつかけ作り」に他なりません。私たちは、伝統と現代を繋ぐ架け橋として、今日も高田本山の門戸を広く社会へと開き続けています。

PS. 2月27日公開の映画「木挽町のあだ討ち」の撮影場所に、高田本山の庭園「雲幽園」(三重県史跡名勝)が選ばれました。主役の柄本佑さんをはじめ、滝藤賢一さん、愛希れいかさんなどが来山



雲幽園での撮影の様子



三重県史跡名勝 雲幽園

され、夜間の撮影ながら、熱気あふれる演技は必見です。

夜の雲幽園がどのようにスクリーンに映し出されるのか、ぜひ劇場で探してみてください。

〔参拝課 広報担当 千賀光真〕

# こんな行事がありました



## 専修寺お七夜竹あかりやすらぎの光

影堂では魯あす香氏によるエレクトーンの特別演奏会があり、さらに専修寺の夜をあたたく、情熱的に彩っていただきました。十五日の夜

にはクライマックスを迎え、二十三時三十分まで解放されていた境内は例年よりたくさんの方々が参拝者でにぎわい、寒くとも心はあたたかくなる雰囲気の中で思い思いにすごしていました。

## ののさまをえがこう展

重要文化財の御対面所で、今年も高田派仏教保育協会所属園のこどもたちが一生懸命描いたののさま(ほとけさま)の絵が展示されました。今回は、十五園から三六〇点が届き、御対面所内を賑やかにしてくれました。また、多くのご家族がこどもたちの力作をみて笑顔になっていました。



普段の夜は暗い境内が、報恩講期間中の七夜はあたたかな竹あかりで照らされ、幻想的な雰囲気味わうことができます。今年も開催されましたこの「専修寺お七夜竹あかりやすらぎの光」では一身田小学校や高田派関係の幼稚園、保育園、施設をはじめ、今年より三重県内の仏教保育園のこどもたちにも参加いただきこどもたちの塗り絵を入れた「お七夜こども竹あかり」と一般募集で参加いただいた方々による約三〇〇〇本の竹あかりが境内を包みました。また今年も境内ではイベントが執り行われ、一月十一日から十二日にかけて国宝御

世界中の多くの方々と仏縁を結ぶために、高田本山ではYouTube「専修寺チャンネル」をはじめ様々なデジタル技術を活用しています。国宝彫刻群などを動画などで紹介する「高田本山デジタルブック」もご紹介しますので、どうぞアクセスください。



## 法会・行事案内

- 涅槃会 三月十五日
- 讚佛会 三月十七日～二十三日
- 中学生教化合宿 三月三十日～四月一日
- 千部法会 四月六日～十一日
- 十万人講法会 四月九日～十日
- 戦没者追弔法会 四月十一日
- 花まつり 四月十九日
- 第78回檀信徒研修会 四月二十三日
- 興学布教研究大会 四月二十九日
- 堯禩上人御正當 五月六日～八日
- 親鸞聖人降誕会 五月二十一日
- 初参式 五月二十一日

## 「仏涅槃図」特別公開



もの巨大な絵には、別れを悲しむ弟子や動物たちのほか、池の中の魚まで描かれているのが全国的にも珍しい特徴だといわれています。

期間中は大涅槃図の世界を分かりやすく語る「絵解き」も行われる予定です。(高田本山HPにてご確認ください)

仏教の壮大な世界観を、ぜひ如来堂で体感してください。

お釈迦さまが亡くなられた3月15日の「涅槃会」に合わせ、如来堂で県内最大級の「仏涅槃図」を特別公開します。高さ約6メートル、畳20畳分

寺院名